

福 井 県 医 師 会

だより

第724号 令和3年(2021)10月



そば畑にたたずむ猫島

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：そば畑にたたずむ猫島

鯖江市 清水 元博

大野市の市街地を走る国道158号線を九頭竜湖方面へ進み、「中休」交差点を右折して南へ少し入った蕨生地区に、通称「猫島」という林があります。正式名は「山伏岩」で、火山の噴火で飛んできたといわれる岩の上に木が生えて、このような形になったそうです。

しかし、地元では、猫のような形状のためトトロ（または猫島）と呼ばれています。

猫島は、春の田植え 夏の夕暮れ 秋の蕎麦畑 冬の雪景色と、季節により色々な佇まいが見られます。今回は、雨上がりの広大なそば畑にたたずむ、「猫島」が撮影できましたが、足繁く通って素晴らしい風景を切り取りたいと思っています。

醫 縫 録

坂井地区医師会長就任挨拶

坂井地区医師会長 金 定 基



このたび坂井健志先生の後を受け、坂井地区医師会長を拝命いたしました。坂井寿範副会長、越野雄祐庶務理事、木村洋平会計理事、川崎勇夫議長はじめ理事の方々と力を合わせ、さらに92名の全会員の皆様のご協力を得ながら務めさせていただきます。宜しくお願い申し上げます。

就任に際し3つの課題を挙げさせていただきます。

一つ目は、坂井地区医師会が総力を挙げて協力している、新型コロナワクチン接種事業です。会員各位による個別接種は勿論、集団接種においては、会場ごとに医師・看護師派遣のコーディネートまで含め、土曜・日曜も返上し全力を投じているところです。

二つ目は、これからさらに需要が増してくる在宅医療を、より有効に効率よく推進してゆくために、在宅ケアネットの活動を発展的に継続してゆくことです。在宅ケアネットは運営し始めてから9年を経過し、主治医・副主治医の紹介、在宅医療に係る多職種をより効率よく連携させるコーディネート、さらに各個人の能力を高めつつ連携の緊密化・効率化を図るための多職種合同の研修会の実施、カナミック（インターネットクラウド空間の患者部屋）を利用した多職種間のリアルタイムな患者情報の共有、坂井地区医師会が地区内7病院と提携し患者受け入れ態勢を確保する、「安心連携カード」の発行などの体制は、すでに完成し利用が進んでいるところです。しかし問題点もあります。在宅医療に携わる医師の高齢化です。新規開業者の数が減り若手医師の参加が少ない事、また、24時間拘束などの「わずらわしさ」を嫌う風潮の下、在宅医療を敬遠する医師が少なくないことなどがあり、後進の参入が不十分であることです。そこで、在宅医療に関する研修会を開いたり、ベテラン医師と患者宅に同行し現場の雰囲気を知ってもらうための同行訪問等を企画したりしてきましたが、なかなか効果の見られないところ

でした。しかし、ここ2～3年、既存開業医の後継者が参加してくれるようになり、明るい光が差し込みつつあります。

三つ目は、坂井地区医師会ケアセンターの経営健全化の問題です。居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・デイサービスの4部会よりなるケアセンターは開設以来19年が経過しています。開設当初は地域の中で競合施設がほとんどなく、地元の医師会立という高い信頼を得て極めて良好な経営状態でした。しかし、徐々に競合施設が数を増してくる中、2017年ごろより赤字経営が続いています。そこで、昨年度より2か所で営業していた訪問看護ステーションを統合し効率化を図りました。他部会でも、営業時間を延長したり、仕事の効率化を図ったり、リハビリに力を入れたり、また、ホームページを新しくするなど、経営の専門家はいいながら各部会の担当者が様々な対策を講じ努力を続けています。その効果が少しずつ現れ始めた見え、昨年は赤字幅が少し縮小し、もう一息頑張ってみようという心境になっているところです。とはいえ、ここ2年でできるだけの実策を実行し、専門家の意見も取り入れ、その後の方針を最悪「廃止」まで選択肢に含め、明らかにしてゆかなければならないと考えています。

このご挨拶が掲載される頃までの新型ワクチン供給量が明確ではありませんが、供給が安定しワクチン接種が今ぐらいのペースで進めば、坂井市・あわら市では、10月末頃までには12歳以上の80%の人が2回接種を終える見込みとなっているそうです。多少ワクチン供給が遅れても、来年春にはこの逼塞した重苦しいムードから解放されるのではないのでしょうか。早くそのような日が来て欲しいものです。